



三原市医師会病院だより

地域医療支援病院
日本医療機能評価機構認定病院

三原市医師会病院

きづな

【編集・発行】

〒723-0051 広島県三原市宮浦一丁目15番1号 TEL(0848)62-3113 FAX(0848)62-7505
<http://www.mihara-hiroshima-med.jp> E-mail:info@mihara-hiroshima-med.jp

平成21年5月発行

12号

平成
20年度

臨床検査精度管理調査にて 優秀施設として表彰



近年の臨床検査は非常に複雑化し、精度管理の重要性はますます高まっています。そして、昨年度より特定健診もはじまり検査データの標準化も今まで以上に必要となっています。

広島県医師会では広島県臨床検査技師会とともに臨床検査の質的向上をはかるため、昭和48年度から臨床検査精度管理調査を実施し、昨年度は広島県下168施設が参加して日常実施している臨床検

査の精度を再確認しました。

私たち三原市医師会病院臨床検査科も、毎年参加し精度管理に努めています。

そして、平成20年度広島県医師会・広島県臨床検査技師会主催の臨床検査精度管理調査において成績優秀施設として広島県医師会より表彰を受けました。

今後とも努力を重ねて地域の皆様に信頼される検査データを報告できる三原市医師会病院検査室を目指していきます。

(文 中央検査部長 小川 安信)

表彰状

三原市医師会病院 殿

貴施設は第36回広島県臨床検査精度管理調査において優秀な成績を認められましたよってここに表します

平成21年2月22日

広島県医師会
会長 離井 静樹
臨床検査精度管理調査委員会
委員長 神辺 真之



かかりつけ医をもちましょう



病気、健康、予防の話

パーキンソン病ってどんな病気?

神経内科 堀江 ノブコ

最近どうも、「歩くのがゆっくりになってきた」「姿勢が前かがみになってきた」「手足が震えるようになってきた」と気づかれる事はありませんか。これらの症状が数ヶ月から数年かけて徐々に進んできたなら、パーキンソン病を疑ってみる必要があります。

パーキンソン病では、多くは60才前後から、安静時の手足の震えが出現したり、筋肉が固くなつて動作が緩慢になつたり、歩くとき前かがみになつたり、小股で小刻みの歩きになつたり、歩き始めは一歩が踏み出しにくく歩き始めると小走りになり止まりにくいといった症状が緩徐に進行してきます。

症状は、初期には一種類しか目立たなかつたり、身体の片側の上肢又は下肢のみに現れたりしますが、経過につれて数種類の症状が身体の両側や四肢に現れてきます。また認知機能は進行期まで良く保たれ、感覚障害は著明ではありません。

パーキンソン病は、大脳と脊髄の連絡部位となる中脳の黒質という部位で、ドーパミンという神経伝達物質を分泌する神経細胞の中に老廃物がたまつやすくなり、ドーパミン分泌細胞が徐々に減っていくために生じます。日本人では約千人に一人が発症するとされており、遺伝しない孤発型が約95%とされています。

パーキンソン病の名の由来は、ロンドンの医師ジェームズ・パーキンソンが、1817年に「An Essay on Shaking Palsy(振戦麻痺についての小論)」という著書で、自身で診察した6人の患者について報告したことによっています。当時の水準として、疾患の原因や治療法については推測に留まりましたが、パーキンソン病の主要症状と発症様式のほとんどが

網羅されており、鑑別疾患も行っているとして、学術的に高く評価されています。

パーキンソン病は、神経変性疾患の一種です。神経変性疾患では、特定の機能をもつ神経細胞群において、細胞内に老廃物が貯まりやすくなつて正常な過程より早く老化減少し、組織が萎縮していきます。症状は数年から数十年を経て緩徐に現れて、発症時期は中年期から多くは高年期です。急激に発症する脳血管障害や、数日から数週間に涉つて亜急性に発症する炎症性疾患や免疫性疾患とは時間的経過が異なります。

パーキンソン病の治療は主として内服薬で行い、ドーパミンの前駆物質(L-ドーパ)、体内に入ってドーパミンと類似した作用を表す物質(ドパミン作動薬)、ドーパミンの分解酵素阻害剤、ドーパミンの分泌促進剤など、効果のある薬が多く実用化されています。また筋力や筋肉の柔軟性の維持などを目標とするリハビリテーションも有用です。

現在パーキンソン病は、薬剤によって症状が比較的良く改善し、個人差はあるものの平均予後20年と進行が緩徐であることが知られています。治療法の進歩により、予後期間も改善してきています。専門的治療を続けながら養生生活を送れば、長期間ある程度生活の質が維持できる「一病息災」病になってきたと言えましょう。

一方パーキンソン病は、原因が異なるのに類似した症状を持つ疾患が多いことが知られています。 実は、①振戦、②固縮、③寡動、④姿勢反射障害の四大徴候を示す疾患は、病気の原因に関わらず、パーキンソン症候群(パーキンソニズム)といい、多種類の疾患があつて疾患毎に治療法も進行速度も異なるのです。

パーキンソン症候群を呈する疾患としては、多発性脳梗塞によるもの(脳血管性パーキンソ



かかりつけ医をもちましょう



ニズム：階段状に症状が増悪、股を開いた状態で歩行、振戦は目立たない)、脳炎や外傷などの後遺症によるもの、一部の薬剤によるもの(薬剤性パーキンソニズム)等多くのものがあります。

また変性疾患の中にも、パーキンソン病類縁疾患として、びまん性レビー小体病(記銘力障害や幻視が多い)、進行性核上性麻痺(頸部が後ろへ反り返り、後方へ転倒しやすい)、ピック病(前頭側頭型認知症：性格変化が著しく問題行動が多くなる)、多系統萎縮症(起立性低血圧が高度)など多くの種類があります。

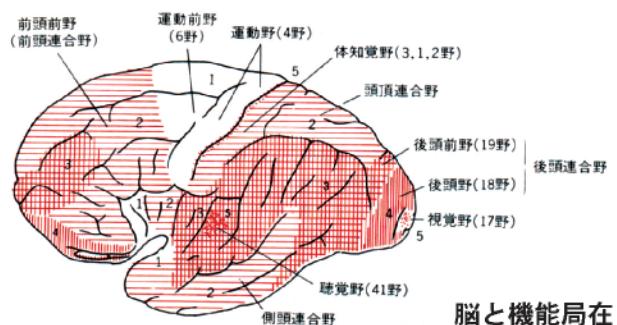
また振戻を生じる疾患には、甲状腺機能亢進症、本態性振戻(動作時振戻：意識して動作を行おうとすると増悪、固縮や寡動は無く症状は進行しない)等もよく見られ、鑑別が必要です。

またパーキンソン病の最近の話題として、MIBG心筋シンチグラフィー検査で、末梢性の交感神経作動薬の心筋への取り込みが低下す

ることを観察することが、パーキンソン病を他の類縁疾患と鑑別するのに有用であるとして行われるようになりました。

当院神経内科では、頭部MRI・CT、脳血流シンチグラフィー、心筋シンチグラフィー、神経電気生理検査(脳波、筋電計)、エコー(心臓、頸動脈)、脈波等で、精査を行いながら、脳・脊髄・末梢神経・筋肉の疾患の診断治療を行っています。

病気の本態をよく把握して、皆様がより良い療養生活を送れるようお役に立ちたいと願っています。



脳と機能局在

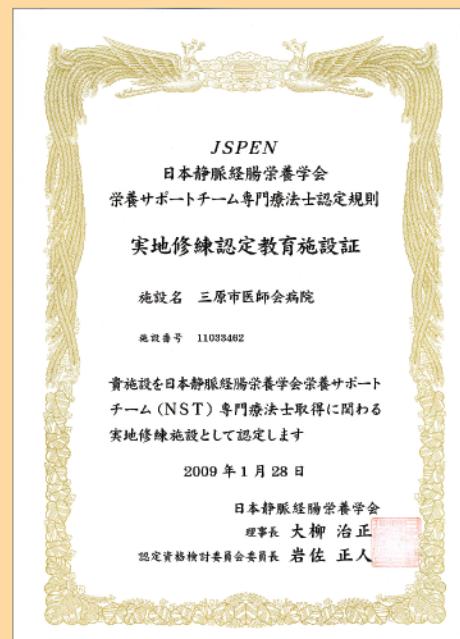
栄養サポートチーム専門療法士の実地修練認定教育施設に認定されました。

栄養サポートチーム(NST)とは、低栄養の患者様の治療効果を上げるため、どのような栄養療法にし、栄養改善を行うかを他職種のメンバーで回診、検討するチームのことをいいます。

当院は、平成17年8月から、医師、看護師、薬剤師、作業療法士、言語聴覚士、臨床検査技師、管理栄養士のメンバーで活動をしています。

栄養サポートを専門的に勉強して、より患者様一人ひとりにあった栄養療法をするため、NST専門療法士という認定資格制度があります。NST専門療法士の認定を申請するにあたり、その条件のひとつに、規定により認定された認定教育施設において、合計40時間の実地修練を修了しているという項目があります。その認定教育施設に、この度当院が認定を受けることができました。

(NST:Nutrition Support Team)



かかりつけ医をもちましょう



院内 部署だより

通所リハビリテーション科



介護保険制度がスタートして10年目を迎えました。この間に三原市医師会病院デイケアセンターをご利用していただいた皆さんに感謝を申し上げます。これからも地域の皆さんに頼りにしていただける通所リハビリテーション事業所として職員一同頑張っていきます。

さて今回は、「まだデイケアを利用したことがないよ」という方のために、デイケアセンターの現在の様子をご紹介したいと思います。

当センターは、高齢や病気のために日常生活で何らかの介護が必要となった方に利用していただける施設です。病院の車で送り迎えをし、リハビリ、入浴、食事、趣味の活動やレクリエーションのサービスを受けることができます。

一日約24名前後の方が利用されています。車いすの方や認知症でもの忘れしやすくなったという方もおられます。皆さん、はじめは緊張されていますが、一日の過ごし方も分かり、職員や他の利用者の方とも気軽にお話をされる頃には、それまで気づかなかつたようなやさしい笑顔を見せられることがあります。

週に2回程度利用される方が一番多く、他の事業所のショートステイと併せて利用される方もいらっしゃいます。体調が悪くなるなど、お休みのときは連絡をいただければ結構です。

ご利用の申し込みは、それぞれの居宅介護支援事業所にご相談してください。施設の見学は随時受け付けていますので、お気軽に声をかけてください。当院に入院され、退院後にデイケアセンターをご利用になるケースや、他の事業所からご照会をいただくケースなど様々です。

ご利用時にはいつも健康状態に気を配り、事故なく過ごしていただけるよう配慮しています。何か変化がありご自宅でも気をつけていただきたいことや、診察が必要なときはご家族にお知らせをしています。

ご利用に関するご相談・お問い合わせは

三原市医師会病院
デイケアセンター(直通)

67-7048



利用者様の作品です。 ▲絵手紙 ▼手芸



かかりつけ医をもちましょう



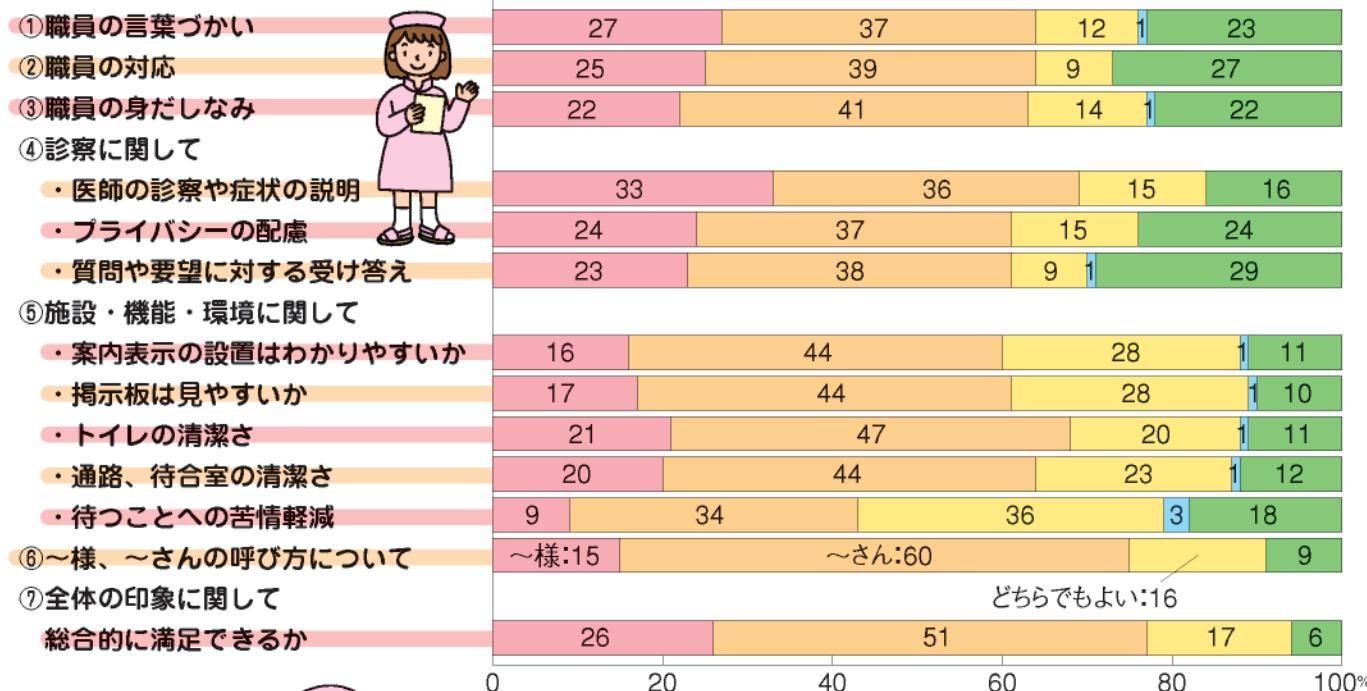
接遇向上推進委員会

～アンケートを実施して～

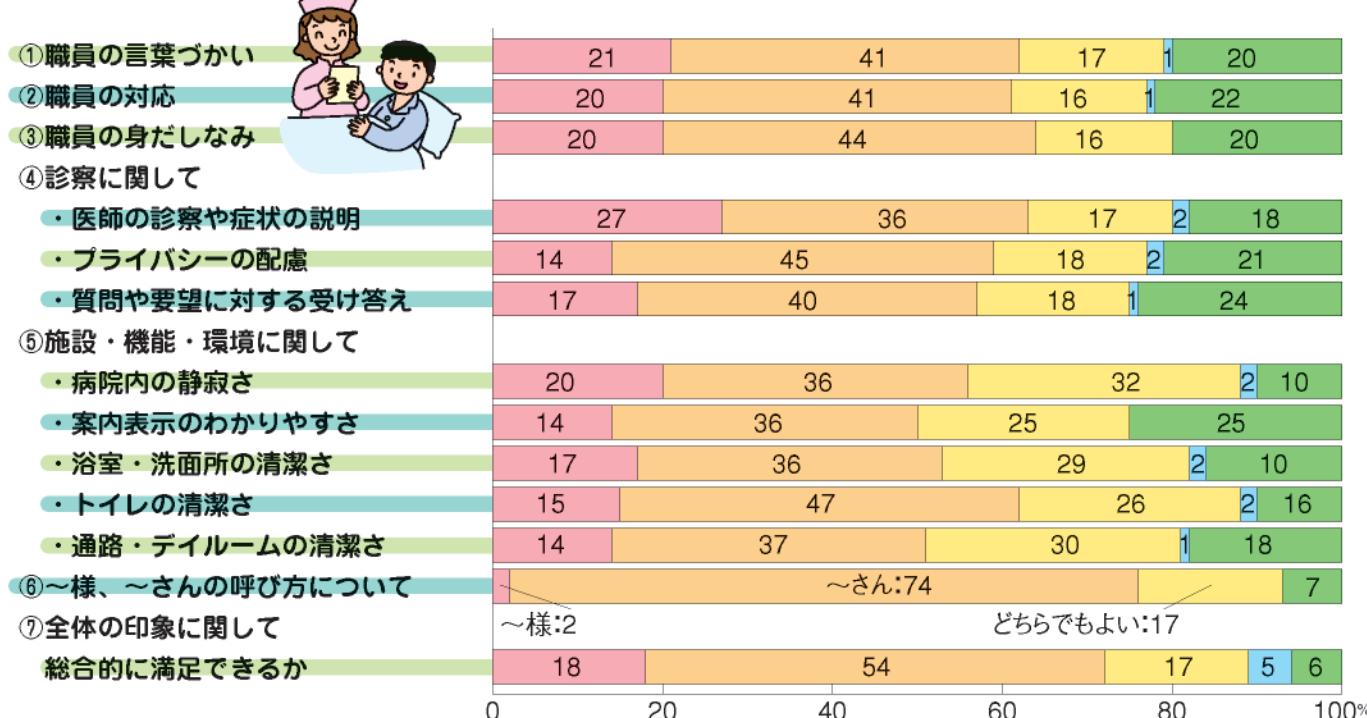
病院スタッフの教育の一環として、毎月1回、接遇向上推進委員会を開催し、サービス接遇についての勉強会と、日常業務で起こり得る接遇応対についてのシナリオを作成し、職員同士でロールプレイングを行い、話し方や態度といったコミュニケーションスキルをより身につけるために、日々接遇向上に取り組んでおり

ます。そこで委員会の一年間の活動と取り組みが病院へ来られる患者様をはじめとする皆様へ、どのように反映できているか、またその評価を分析するため、「接遇に関するアンケート」として実施期間 平成21年2月24日～3月3日で期間中の外来患者様、入院患者様を対象にアンケートを実施しました。

外来



入院



患者様により満足していただけたよう、アンケートの結果と様々なご意見をもとに改善案の構築などを行い、これからも職員みんなで接遇向上推進に取り組んでいきます。アンケート実施期間中、ご協力いただきました皆さんに心よりお礼を申しあげます。



かかりつけ医をもちましょう



診療体制一覧表

	月	火	水	木	金	土
内 科	檜井俊英	奥崎 健	三玉康幸	奥崎 健	久保田益亘	清原大輔
神経内科			堀江ノブコ			
外 科	佐藤幸雄	見前隆洋	笹田伸介	佐藤幸雄	笹田伸介	見前隆洋
手術日	●		●			
整形外科	安原慎治	安原慎治	休診日	安原慎治	安原慎治	安永裕司
手術日					●	
透 析	上野敏憲 (隔週) 内科医	上野敏憲 (隔週) 内科医	内科医	内科医	内科医	内科医

受付時間／休診日

◆外来受付／

午前 8:30～12:00

◆休診日／

日曜、祝日、8月14日・15日
年末年始(12月29日～1月3日)

◆専門外来

第2・4木曜日：神経内科・近藤 啓太
 毎週金曜日：循環器内科・莊川 知己／呼吸器外科・岡田 守人
 毎週土曜日：整形外科・安永 裕司／泌尿器科・広大派遣医師
 第2・4土曜日：乳腺外科・船越 真人

休日診療時間

※休診日には、院内併設の三原市医師会休日夜間急患診療所で診療しております。

◆内科・外科 平日／17:30～翌8:30、日・祝日／8:30～翌8:30
 ◆小児科 月～金(祝日を除く)／19:00～22:00(但し、8月14日・15日、12月29日～1月3日は休診)



健康講座開催しています！

地域の皆さんに医療に関する情報を提供できれば、といった思いから、健康講座を開催しています。平成15年1月、『肺がんについて』をテーマとし第1回目を開催しました。



前回3月の開催(第44回目)では『生活習慣病 あなたの血管年齢は??』をテーマに、内科医が講演し、その後、検査技師が血圧脈波同時測定装置を使って実際に検査を行い、聴講された方々の血管の状態をいっしょに確認してみました。

多少、お待ちいただく時間もありましたが、談話をしながら和やかな雰囲気で進行することができました。

健康講座は3ヶ月毎に開催しております。次回は6月の開催で『夏バテ防止について』をテーマとし予定しているところです。お越しになられ聴講されるだけではなく、何か体験していただけるような内容のものをご提供できるよう検討しています。

皆さまのご参加をお待ちしております。

時 間 約1時間から1時間半程度

申込窓口 三原市医師会病院 健康診査科 67-7030(直通)

案内については、当院ホームページ掲載・当院内に掲示・市内開業医の先生方の各医院に掲示させていただいている。

医師の異動

退 任

内 科	阪田裕二郎
	山田 剛司
外 科	野間 浩介
	池田 拓広
専門外来	山崎 雄
神経内科	

新 任

内 科	清原 大輔
	三玉 康幸
外 科	佐藤 幸雄
	笹田 伸介
専門外来	近藤 啓太
神経内科	



かかりつけ医をもちましょう

